



梓川の世帯数・人口

世帯数	4,780 戸
人口	12,379 人
男	6,114 人
女	6,265 人

(令和4年7.1現在)



# 梓川かわものがたり

水害と開発の歴史を  
絵図から探る

摩高校がある付近に島内堀米の渡場で材木を集積したよう

## 現在のながれ

6月8日から19日にかけて梓川アカデミア館で江戸時代と明治時代の巨大な古地図を公開した「梓川かわものがたり」の展示が催されました。

県立歴史館所蔵の江戸時代(寛政9年)に描かれた巨大川除(かわよけ)絵図をはじめ、明治時代後期の河川測量平面図などが展示され、現在の河川の位置との比較が画像で紹介されるなど、梓川の昔と今



▲巨大川除絵図(県立歴史館所蔵)

を分かりやすく知ることができ、過去に大きな水害が幾度と起こり、松本藩管理の丁場毎に先人たちが築いた川除(治水工法)の跡や、現在も多く残る田畑の流路となるせきなどを記した場所が、古い絵図から見て取れます。

## 昔の梓川のながれ

かつて江戸時代の川幅は今より広く、島内の小宮団地や梓川サービスイリアの地域までもが河川域となっていたようです。実際に梓川沿岸の山から伐採した木材を運搬(木流し)のために流路として築かれた樽木川は、三溝の大籠場を取入口として、現在の筑



▲展示解説をする県立歴史館名誉学芸員の山浦さん

福社ひろばってどんなところかご存じですか。梓川地区福社ひろばは、梓川支所南側の梓川保健センター内にあります。福社ひろばを知ってもらおうと、6月9日(木)に一日開放日「ひろばにおいでDAY!!」が開催されました。当日ひろばに訪れた参加者は、お友達とおしゃべりをしながら折り紙をしたり、お茶やコーヒーを楽しみながら自由に

## 福社ひろば一日開放日 ひろばにおいでDAY!!

な水源として使われる梓川ですが、昔から先人は水害に苦勞し、また川の恩恵を受けながら、共に発展してきたのだと感じることが出来ます。昨年の夏、梓川は大雨により、上流ダムからやむを得ず放流された四百トンの水で堤防が削られ災害として記録されました。今もなお護岸復旧工事が進められており、倭橋からも工事の進捗が見取れます。

## これからの梓川水系

近年は気候変動の影響で季節の変わり目もはっきりせず、いかほどの雨が降るか予想もつかない時代となりました。

## 梓川地区福社ひろばのコーディネーター



▲左から南山さん、齋藤さん、高山さん

日はひろだよりをご覧ください。(梓川地区福社ひろば 78-3000)

▲昨年8月の豪雨災害で壊れた護岸の復旧工事の様子(写真 千曲川河川事務所提供)



過去の教訓を忘れることなく災害に備え、梓川の恵を受けながら人と自然が共存していくことを大切にしていくことで将来の発展につながっていくのだと感じることが出来ました。

### 梓川地区リーダー研修会

梓川地区子ども会育成会によるリーダー研修会が、6月11日と6月25日の2日間わたり開催されました。

リーダー研修会は小学5、6年生を対象に開かれ、参加者は、8月に開催される三重



▲目隠しをして、体感を使って移動する「目隠し芋虫」などネイチャーゲームを行いました。



▲まずは仲間づくり。自己紹介やゲームなどをして、クラスや学年を越えて仲良くなりました。

県御浜町とのふれあい交流会に参加します。

研修会1日目は、信州やがいたけんぶらす、2日目はNPO法人安曇野ふるさとづくり応援団が講師になり、参加者は地区の自然や文化を学び、友情を深めました。



▲梓川地区の新たな発見や御浜町の児童に伝えたい魅力を模造紙にまとめ発表しました。



▲地図を見ながら梓川地区を歩き、楽しく学びながら地区の魅力を再発見しました。

### 梓川小学校 校舎長寿命化へ着手

松本市は、梓川小学校の校舎の耐用年数を60年から80年に延ばす長寿命化工事に着手しました。現在校庭の3分の1に仮設校舎が建設されています。

この長寿命化工事では、内外装の全面改修に加え、建物を支える鉄筋コンクリートの劣化対策など大がかりな作業を行います。工事完了は令和7年9月を予定しています。



▲仮設校舎建設の様子

### 新任分団長あいさつ 地域の安全を守ります



第36分団 西村分団長

本年度、松本市消防団第36分団の分団長に就任しました西村です。

第36分団は、梓川の中でも山沿いの地域に当たる、大久保、南北条、北々条、小室の4町会を管轄しています。

毎月1日と15日に担当地域を巡回するほか、火災現場での消火活動のみならず、地震

や水害など多数の動員を必要とする大規模災害時の救助救出活動、災害防衛活動、行方不明者の捜索など、様々な活動を行っております。



私も含め、団員は会社員や自営業など普段はそれぞれの仕事に就いていますが、災害発生時には地域の皆様の安全を第一に考え、いち早く現場に駆けつけて対応にあたります。現況のコロナ禍において、感染拡大防止対策には十分配慮しながら活動を続けてまいりますので、引き続き皆様のご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

### 雑記帳

梓川に引越してきて分らなかった言葉は、ズクがない、りんごがボケル、今朝はシミル、家がタタル、マエデニ置く、子どもがワニルなど。

方言だと思つて梓川村誌を調べると「梓川村方言は、長野県の方言のほとんどがそうであるように、東日本方言に属し、さらにその中の長野、山梨、静岡を一つにまとまりとする、いわゆるナヤシ方言に属している。ナヤシ方言の発音(音韻)やアクセントの特徴は基本的には東京方言と同じである。ナヤシ方言を東京などの西関東方言と分ける特徴は、文法的特徴にある。意志を表す「ズ」や推量を表す「ズラ」「ズズラ」「ラ」「ツラ」を使う点がそれである。ちなみに西関東方言では、それは「ベ」「ダンベ」となる。梓川村方言では、「ズラヤ」「ツラ」などを盛んに使っているナヤシ方言の特徴といわれる物はすべて持っている」とあって、言葉の迷路に入ってしまった。 ゴミ出しの時の何気ない会話や町会の集まりなどでの会話に出現したときは、相手の表情や話の流れから「たぶん、こうだろう」と理解しているうちに少しずつ分かってくるような気がする。梓川の仲間になれましたかね。